

ととろ

ともに楽しみ ともに学び 元気になる

第119号(令和3年6月1日発行)
静岡県身体障害者福祉センター
静岡市葵区駿府町1番70号
TEL:054-252-7829
FAX:054-255-2011

県視覚障害者情報支援センターの井上さんの記事が

静岡新聞に掲載されました!



令和3年(2021年)5月13日(木曜日)

静岡

J55

発行

厚紙

(タテ)

(第三種郵便物認可)

「目のプロ」の私 全盲になった今



突然の病気で全盲となった井上翔太さん。視能訓練士の経歴も生かし、目が不自由な人のサポートに励んでいる。4月下旬、静岡市葵区の県視覚障害者情報支援センター

視力検査や目の機能訓練を行う「視能訓練士」として働いていたさなか、突然の病気で全盲になった井上翔太さん(36)＝埼玉県出身＝が4月から、静岡市葵区の県視覚障害者情報支援センターに転職して、同じ障害のある人たちのサポートに取り組んでいる。「目の専門職だった経験も生かし、次の一歩を踏み出せるような手助けをしたい」。本原に単身移住し、新たな人生の目標に向けた挑戦を始めた。

「見えない世界」導く力に

埼玉の男性 新天地静岡へ

視覚障害者へ情報支援

視能訓練士 1971年に制定された「視能訓練士法」に基づく国家資格を持つ専門技術職。主に医療機関で勤務し、医師と連携しながら目の機能に関する検査や斜視・弱視の対応訓練、多様な「見えにくさ」の対策を行う「ロビジョンケア」などの業務を担う。日本視能訓練士協会によると、2020年12月末時点の有資格者は1万6982人。

最初に目の異変を感じたのは、群馬県内の眼科診療所に勤めていた2018年の夏。焦点が合わず、まぶしさが続く。次第に文字が読むことが難しくなってきた。精密検査の結果、脳腫瘍が見つかった。医師の説明は「手術すれば改善する」との趣旨。ただ、術後に視力を失ってしまった。視能訓練士になって12年目。「担当していた患者さんの顔が浮かんだりして。もつと仕事が出来なかった」。沈むこともあったが、友人や同僚の支えで前を向いた。「何とかしなくてはならない」と、必死にやってきました。

復職を目指して1年間リハビリを続けたものの、結果は出なかった。それでも「見えないうちは不便かもしれないが、何もできなくなっていたわけではない」と言い聞かせた。コロナ禍の中、東京都内の職能開発施設にさらに1年間通い、読み上げソフトを使ったパソコンの操作法などを身につけた。

年明けからの就職活動で偶然、本県の視覚障害者情報支援センターの求人を知った。目の不自由な人に寄り添い、さまざまな相談に応じる支援員の仕事に魅力を感じた。「これまでとは異なる立場で困っている人を支えた」。自身の障害に対する不安な気持ちをしまい込み、縁もゆかりもない土地に飛び込む覚悟を決めた。「視覚障害者はどうしても「情報弱者」になりがち。医療機関との連携強化やセンターの利用者同士の結び付きを強めながら、自分も暮らしやすい地域を目指したい」と夢を語る。上司と同じく全盲の土居由和センター長は「視覚障害者の心配事や悩みについて、経験を踏まえた厚みのある助言や対応ができるはず」と期待する。(社会部・松岡雷大)



二階にある県視覚障害者情報支援センターの井上翔太さんの記事が、5月13日(木)静岡新聞夕刊に掲載されました!

井上さんのこれまでの出来事や、支援員としての今後の抱負について話されています。

この仕事に魅力を感じ、埼玉から、縁もゆかりもないこの静岡に来てくださった事、とても嬉しいことですね。ぜひ、記事を読んでみてくださいね!

